第３・４学年　算数科学習指導案

日　時　平成 20 年９月 30 日（火）　５校時
児　童　３年　男４名　女２名　計６名
　　　　４年　男１名　女５名　計６名
指導者　藤川　律子

＜３学年＞

１　単元名　　あまりのあるわり算

２　単元について

（１）教材について

本単元は、学習指導要領Ａ「数と計算」（４）除法「除法の意味について理解し、それを用いることができるようにする。」から設定されている。

除法の意味と、乗法九九 1 回適用してできる除法計算（あまりのない場合）については、第３単元で学習している。

本単元では、その発展として乗法九九を 1 回適用してできる除法で、あまりのある場合の計算の意味と計算方法について学習する。そして、あまりのある除法計算を用いる場合でも、あまりのない除法計算と同様に進んで問題解決に活用できるようにすることをねらいとしている。また、本学年で扱う計算は、第４学年で学習する除法の計算のためにも必要であり、確実に技能を身につけるようにすることが大切である。

（２）児童について

本学年の児童は、学習に対する意欲が高く与えられた課題に一生懸命取り組んだり、自分の考えを友だちに説明したりすることも好きである。しかし、相手を意識して話したり、聞いたりするなど、他と関わり合いながら学習していく態度は十分とは言えない。また、少人数ながら個人差が大きく、自分の力で学習を進めるのが難しい児童もいる。

レディネステストの結果をみると、あまりのない除法の計算と、数学的な考え方を問う、除法を適用して解く文章問題の立式と計算については、それぞれ 5 名ができていた。しかし、乗法九九の計算ミス等もみられる。

（３）指導について

指導にあたっては、既習のあまりのないわり算と同様に、おはじきの操作や図や九九表を活用するなど、算数的活動を工夫しながら、ていねいな指導を展開したい。

はじめに、乗法九九 1 回の適用でわり切れる包含除の場合の問題を解決し、次にわり切れない場合へと進み、既習のわり切れる除法計算との違いを明確にする。次いで、14÷3と立式した商を求める考え方を展開する。おはじきの操作や図や乗法九九の適用によって商を求めることを通して、残りの数が「あまり」であることを理解させる。さらに、除法計算は、「わりきれる」「わりきれない」という形に分類できることを知らせる。また、等分除の場合も取り上げ、除法の意味の一般化に迫っていく。

次に、13÷４の計算についてあまりと除数の大きさの関係について考察させ、被除数が 12 から 17 の場合のあまりの大きさを調べた結果から、あまりが 1 から 3 までの繰り返しになっていることや、あまりは被除数より小さく

＜４学年＞

１　単元名　　分数

２　単元について

（１）教材について

本単元は、学習指導要領Ａ「数と計算」（５）分数の意味と表し方「分数の意味とその表し方について理解できるようにする。」から設定されている。

前学年までに長さやかさの測定に関して、数値と単位を使って表してきている。また、また、ある大きさの半分とか、四つに分けた一つの大きさを表すことについても、児童は日常生活の中で経験してきている。

本単元では、これらの経験を踏まえて、端数部分の大きさや等分してできる部分の大きさなどを表すのに分数を用いることを知り、それらを適切に用いることをねらいとしている。また、整数や第６単元「小数」での学習と関連づけることによって、同じ点や違う点が見えてくる。このことが、分数のよさに気づくことであり、数としての意識を高めていくことになる。さらに、本単元の発展として、第５学年の同分母分数の加減計算や異分母分数の大小比較、基準量を変えた分数の学習など、本単元は、分数の学習の素地となる役割を果たすものである。

（２）児童について

本学年の児童は、与えられた課題に一生懸命取り組もうとする態度が見られ、教え合いながら学習を進める力も育ってきている。しかし、自分の考えをもち、自分の力で課題を解決していくことや、自分の考えを分かりやすく相手に伝えることには難しさを感じている子どももいる。さらに、理解力、計算力、作業の速さなどにおける個人差も大きい。

レディネステストの結果をみると、小数で表されたはしたの量を図に表現することについては全員ができていた。しかし、数学的な考え方を問う、正方形の面積の半分をとらえる問題や、小数の加減計算については十分とは言えない。

（３）指導について

指導にあたっては、日常生活の中の「等分」を素地として、単位量を何等分して単位分数をつくったかを意識させながら、分数の意味や表し方を理解させ、筋道立てて説明できるように、算数的活動や学び合いを工夫しながら指導を展開したい。

はしたの大きさの表し方を考える過程において、導入では、はしたの長さが１ｍを３等分した１こ分であることを理解させ、読み方や書き方を知らせる。このとき、1mのテープを３等分する活動や分母分の１だけ色を塗る活動を取り入れ、理解を深めていく。次に、１ｍのテープを３等分した２こ分の長さを表す活動を、テープの操作活動を通して理解させていく。また、何こ分だけ色を塗る活動で

なるようにすることを見いださせ、除数とあまりの関係の理解をまとめる。
　そして、23÷6の問題解決を通して、あまりのある除法の式表現の方法の理解を確かにし、図と関連させながら、あまりのある除法の答えの確かめができるようにする。
　最後に、あまりのある除法を適用する問題で、あまりの処理のしかたを考えさせる。ここでは、題意に沿って計算結果の意味を再考するため、これまでの除法を適用する問題とは異なる。そこで、おはじきの操作や図の活用など算数的活動を取り入れた指導を行う。

３　単元の目標

○　乗法九九を１回適用してできる除法で、あまりのある場合の計算のしかたについて理解するとともに、それを用いる能力を身に付ける。

［関心・意欲・態度］
・あまりのある除法計算を、あまりのない除法計算のときと同様に進んで問題解決に活用しようとする。

［数学的な考え方］
・既習の除法と関連づけて、あまりのある場合でも乗法九九を使って答えが求められることを筋道立てて説明する。

［表現・処理］
・あまりのある除法計算ができ、答えの確かめをすることができる。

［知識・理解］
・「あまり」の意味、あまりと除数の大小関係、及び、あまりのある除法計算のしかたを理解する。

４　教材の関連と発展

第２学年	第３学年	第４学年
⑩かけ算（１）	→①かけ算	→③わり算の筆算（１）
↓	↓	↓
⑪かけ算（２）	③わり算	⑨わり算の筆算（２）
	↓	
	⑧あなりのあるわり算	

５　指導計画（８時間）

小単元	時数		学習活動	評価規準
①あまりのあるわり算	5	1 本時	・ゼリー１２個、１５個、１４個を３個ずつ分けたとき何人に分けられるかを考える。	［関］わり切れない除法計算を既習の計算を使って考えようとしている。 ［考］わり切れない除法計算を、既習のわり切れる場合と結びつけて考えている。
		1	・１４÷３の答えの見つけ方を考える。 ・「あまり」の意味を理解する。	

ももとにする長さを明らかにして考えさせ、塗らせるようにする。そして、長さの場合に用いた分数をかさの場合にも使えるか考えさせていく。
　分数の大きさの表し方については、まず、数直線上で、１ｍを何等分しているかを確認し、１目盛りが 1/5m であることを確認する。そして、２こ分、３こ分、４こ分、５こ分の大きさを表す分数を書いていく。５こ分で１ｍと同じことに気づかせていく。次に、１より大きい大きさの分数にふれ、分数の数としての理解を深めていく。ここで、「真分数」「仮分数」「帯分数」を知らせる。次に、ｍやℓなどの単位がつかない分数の理解を図っていく。ここでは、単位のついた分数と違い、具体的に大きさが見えてこないので、数直線を用いて視覚的に学習させる。また、大小比較のために帯分数や仮分数にそろえる関係を分数の構成から理解させる。最後に、数直線をもとに分母が １０の分数の大きさを考えることで、整数、小数、分数の関連を図っていく。

３　単元の目標

○　分数の意味とその表し方について理解するとともに、端数部分の大きさや等分してできる部分の大きさなどを表すときに分数を適切に用いる能力を身につける。

［関心・意欲・態度］
・分数を用いると、端数部分の大きさや等分してできる部分の大きさなどを表せるよさに気づき、進んで生活に生かそうとする。

［数学的な考え方］
・分数は単位量を何等分かした１こ分を単位として、その何こ分で表すことを筋道立てて説明できる。

［表現・処理］
・端数部分の大きさや等分してできる部分の大きさなどを分数を用いて表すことができる。

［知識・理解］
・分数の意味や表し方を理解する。

４　教材の関連と発展

第３学年	第４学年	第５学年
⑨長方形と正方形→	⑥小数	→ ④分数のたし算と引き算
	↓	↓
	⑧分数	⑫分数と小数

５　指導計画（13時間）

小単元	時数		学習活動	評価規準
①はしたの大きさの表し方	3	1	プロローグ ・p.78の写真を提示し、日常生活の中で等しい大きさに分ける場面を話題として取り上げ、自由な話し合いなどをしながら、等分したときの大きさの表し方について興味・関心を高めるようにする	
			・１ｍのテープを３等分した１こ分の長さの表し方を考える。	［関］１ｍのテープを３等分した１こ分の長さを、ｍを単位として表す方法を

		1	・１３÷４の計算についてあまりと除数の関係を調べる。	［知］除数はあまりより大きくなることを理解している。
		1	・あまりのある場合を含む除法の答えの確かめ方を考える。 ・計算練習と答えの確かめをする。	［表］あまりのある除法の答えを乗法九九を使って求めることができる。 ［知］あまりのある除法の答えの確かめ方を理解している。
		1	発展　ものい知りコーナーを読んで、わり算の筆算形式について知り、わり算への関心を広げる。	
②あまりのあるわり算	1	1	・題意をとらえ、17÷3と立式し、計算して答えを求める。 ・計算では、5あまり2だが、答えは商＋１になることを話し合い、理解する。	［考］題意をとらえて、商に１を加えた数が答えになることを筋道立てて説明できる。
まとめ	2	1	・「力をつけよう」に取り組む。	［表］学習内容を正しく用いて問題を解決することができる。
		1	・「たしかめよう」に取り組む。	［知］あまりのある除法の答えの求め方を理解している。

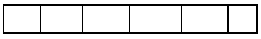
			・その長さを１ｍの「三分の一」といい、「1/3」と書くことを理解する。	考えようとしている。 ［知］１ｍのテープを３等分した１こ分の長さを１ｍの「三分の一」といい、「1/3」と書くことを理解している。
		1	・１ｍのテープを３等分した２こ分の長さの表し方を考える。 ・その長さを１ｍの「三分の二」といい、「2/3」と書くことを理解する。	［考］2/3ｍは、１ｍのテープを３等分した２こ分の長さであることを説明できる。
		1	・１ℓを５等分した２こ分のかさの表し方を考える。 ・１ℓを４等分した１こ分、６等分した４こ分のかさの表し方を考える。 ・「分数」「分母」「分子」の意味を知る。	［表］１ℓを等分し、それに何こか集めた大きさを、分数を用いて表すことができる。 ［知］分数、分母、分子の意味を理解している。
②分数の大きさの表し方	7	1	・1/5 の２こ分、３こ分、４こ分の長さは何ｍか考える。 ・5/5ｍは１ｍと同じ大きさであることを理解する。 ・4/5ｍと 3/5ｍの長さを比べる。	［表］分数を用いて表した数を数直線上に表したり、表された量の大きさをとらえたりすることができる。 ［知］5/5 は１であることを理解している。
		1 本時	・1/5ｍの６こ分、７こ分、・・・の長さは何ｍか考える。 ・「真分数」「仮分数」の意味を知る。	［考］整数と同じように、単位の何こ分として仮分数をとらえている。 ［知］単位量をこえる大きさは仮分数や帯分数で表せることを理解している。
		1	・「帯分数」の意味を知る。 ・真分数、仮分数、帯分数を弁別する。	
		1	・数直線をもとに単位分数による仮分数、帯分数の構成を考える。 ・整数と同値の仮分数について調べる。	［表］仮分数と帯分数の大きさを比べることができる。 ［知］仮分数と帯分数の変換のしかたや、仮分数、帯分数のそれぞれのよさを理解している。
		1	・仮分数と帯分数の大きさの比べ方を考える。	

		1	・1/10 を単位とした数直線をもとに分数の大きさや、分数と小数の関係について考える。 ・小数第一位を「1/10 の位」ということを知る。 ・整数、小数、分数を弁別する。	［知］数直線上に表された 1/10 を単位とした分数について、その大きさや小数との対応関係を理解している。
		1	発展　「もの知りコーナー」を読んで分数にも加法、減法があることを知り、分数への関心を広げる。	
まとめ	3	1	・「やってみよう」分数ものさしを作って、いろいろなものの長さをはかったり、折り紙を使って分数の大きさを表したりする活動に取り組む。	［関］学習内容を適切に活用して、活動に取り組もうとしている。
		1	・「たしかめよう」に取り組む。	［知］基本的な学習内容について理解している。
		1	発展　巻末ｐ99 の「おもしろ問題にチャレンジ！」に取り組み、単元の学習問題をもとに単位分数についての理解を深める。	

6　本時の指導 （１）目標 ○乗法九九を 1 回適用してできる除法で、あまりのある場合の計算方法を考える。 （２）数学的な考え方を高めるための課題解決の場における工夫 ○　個に応じた算数的活動について 既習のわり切れる場合から**類推**して考えられるように、**おはじきの操作、図、かけ算**で求めた例を「算数コーナー」に掲示する。見通しの場面で、既習の計算方法から除数である３の段の九九を活用できそうだという見通しをもたせながら、解決方法を決定させる。**おはじきを操作**したに子どもにも、**図や言葉**で説明できるようにワークシートにまとめさせる。**乗法九九**や 14÷3＝4 あまり 2 と**式表示**している子どもには、**おはじきや図**を使って確かめるよう指示をする。支援の必要な子どもには、算数コーナーや教科書ｐ66 のまみさんの考えを手がかりに、ジョイントティーチャー（ＪＴ）と一緒に**おはじきを操作**させせワークシートに図を書かせる。 ○　個を生かした学び合い活動について はじめに、**おはじきや図**で解決した考えを取り上げ、３つずつ囲んでいることに気づかせる。次に、**乗法九九**で解決した考えを取り上げ、３×□になっていることに気づかせる。乗法九九についての考えが出なかった場合は、板書で提示し、どのように考えているのか、話し合わせる。どちらの考えも３×４になることが既習のわり算との**共通点**であり、２こあまることが**相違点**であることをおさえ、わり切れない場合でも、わり切れる場合と結びつけて**演繹的**に考えられることに気づかせていく。	6　本時の指導 （１）目標 ○単位量をこえる大きさも分数で表せることを理解する。 （２）数学的な考え方を高めるための課題解決の場における工夫 ○　個に応じた算数的活動について 前時の**テープ図**と**数直線**から**類推**して考えられるように、「算数コーナー」に掲示する。1/5ｍの３個分などを復習し、見通しの場面では、単位分数の何個分と考えれば、分数に表せそうだという見通しをもたせる。全員に**テープ図**と**数直線**と**を対応**させたワークシートを用いて取り組ませる。どのように考えて数直線に目盛りを書いたかの理由を**言葉**で記入させる。戸惑う児童には教科書ｐ83 の図やＪＴからのヒントを手がかりに、テープ図と数直線の目盛りが対応していることに気づかせる。支援の必要な子どもにはＪＴと一緒に単位分数が何個と確認しながらテープ図で取り組ませる。 ○　個を生かした学び合い活動について はじめに、分数を用いて表した量を確認する。次に、数直線の目盛りをどのように区切ったか、子どもの理由を検討する。そして、数直線のどこにそれぞれの分数を表すか確認する。これらの話し合いから、既習の分数との**共通点**を見いだし、分母は単位の大きさを表すこと、分子が単位分数の何こ分を表していること、１より大きい数も分数で表したり、数直線上に表したりできることなど、数範囲を単位量をこえる大きさまで**拡張**できることに気づかせていく。また、理解をより確かにするために、整数や小数との対比もさせる。

（３）展開

・教師の支援と［評価］	学習活動	段階	形態	学習活動	・教師の支援と［評価］
・紙板書から、わり算を適用する場面であることを確認する。 ・３の段の九九を用いて計算したことを確認する。	１　問題をつかむ ①□個のゼリーを３個ずつ分けようとしている場面であることをおさえる。 ②ゼリーが 12 個、15 個のとき、わり算が適用されることをおさえ立式する。 ・12÷3＝4　<u>答え４人</u> ・15÷3＝5　<u>答え５人</u>	つかむ ５分	ひろげる １０分	１　練習問題をする ・教科書ｐ82① ・プリント ・答えあわせをする	・学習の内容や手順を確認する。 ・ＪＴの動き ①答え合わせ ②練習問題での誤答のチェック ③支援を要する子どもへの支援
ゼリーが 14 こあります。１人に３こずつ分けると、何人に分けられますか。					
・３個ずつ分けるというわり算の場面であることをおさえ、14÷３を導くようにする。	③立式する 式　14÷３ ２　課題をつかむ				
14÷３の答えの求め方を考えよう。					
・14÷３の答えは、何の段の九九を使って求められるか発問し、既習内容から**類推**し、わる数の３の段の九九を活用すればよさそうだという見通しをもたせる。 ・算数コーナーの既習事項、わり切れる場合で**おはじきを使って操作**したことや、**図**、**乗法九九**での答えを見つけたことをもとに、解決方法を決めさせる。	３　解決の見通しをたてる ①答えの見通し ・12 このときは４人で、15 このときは５人だったから、４人かな。 ②方法の見通し ・おはじきで考える。 ・図で考える。 ・３ の段のかけ算で考える。	みとおす ５分			
〔個に応じた算数的活動〕 ・**おはじきを使って操作**した児童には、**図と言葉で説明**できるようにワークシートにまとめさせる。 ・**乗法九九**や 14÷3＝4 あまり２と**式表示**している子どもにも、おはじきや図で確かめさせる。 ・活動に戸惑う子どもには、算数コーナーの活用や教科書ｐ66 を手がかりに問題を解くよう指示をする。 ・支援の必要な子どもには、教科書ｐ66 のまみさんの考えを手がかりに、ジョイントティーチャーと一緒に**おはじきを使った操作活動**をさせる。	４　自力解決をする ①おはじきや図を使って ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ <u>答え　４人に分けられて２こあまる</u> ②３の段の九九を使って ・３人に分けると 3×3＝９ ５こあまる。 ・４人に分けると 3×4＝12 ２こあまる。 ・５人に分けると 3×5＝15 １こたりない。 <u>答え　４人に分けられて２こあまる</u> ③14÷３＝４あまり２	かんがえる １５分	つかむ ８分	１　問題をつかむ	・はじめに、前時のテープ図と数直線を提示し、1/5m の３個分などを復習し確認してから、問題を提示する。
				1/5mの６こぶん、７こぶん、８こぶん、９こぶんの長さはそれぞれ何ｍといえばよいでしょうか。	
				・５こ分で１だったけど、６こ分は 6/5m とできるのかな。 ２　課題をつかむ	・単位分数の何個分という見方をして、分数で表せることを確認する。 ・５こぶんの分数について確認し、１より大きくなることに気づかせる。
				１より大きい分数の表し方を考えよう。	

	・ホワイトボードに自分の考えを書き、解決結果の交流の準備をする。 ・学習リーダーを中心に、考え方の交流を行う。		みとおす 7分	3　解決の見通しをたてる ①答えの見通し ・何こ分は、分子の数だったから６こ分だと 6/5ｍと表せる。 ②方法の見通し ・テープ図を使う。 ・数直線上に表す	・前時の学習内容から答えと方法を**類推**させ、見通しをもたせる。
〔個を生かした学び合い〕 ・はじめに、**おはじき操作や図**で解決した考えを取り上げ、３つずつ囲んでいることに気づかせる。 ・次に、**乗法九九**で解決した考えを取り上げ、３×□になっていることに気づかせる。 ・14÷３＝４あまり２と**式表示**した子どもには、どのようにして答えを確かめたか説明させる。 ・乗法九九についての考えが出なかった場合は、板書で提示し、どのように考えているのか、話し合わせる。 ・それぞれの考えの**共通点**を考えさせ、既習のわり算との**共通点**に気づかせる。その後であまりがあることが**相違点**であることに気づかせる。 ・わり切れない場合でも、わり切れる場合と結びつけて**演繹的**に考えられることを理解させるようにする。 ・**より良い考えの気づき**として、かけ算がはやくて簡単にできることを意識させる。 ［考］わり切れない除法計算を、既習のわり切れる場合と結びつけて考えている。 （ワークシート、発表、観察）	5　結果の検討をする ①共通点や相違点について話し合う。 （共通点） ・どの考えも４人に分けられて２こあまっている。 ・おはじきも式にすると３×４になる。 ・かけ算九九を使えるんだ。 ・あまりがある。 ・前にやったわり算と同じ。 （相違点） ・あまりがある。 （より良い考えの気づき） ・かけ算を使うとはやく、かんたんにできる。	ふかめる 10分	かんがえる 12分	4　自力解決をする ①テープの図で表す。 1/5ｍの６こ分は 6/5ｍ 1/5ｍの７こ分は 7/5ｍ 1/5ｍの８こ分は 8/5ｍ 1/5ｍの９こ分は 9/5ｍ  ②分数を数直線上に表す。 ＜理由＞ ・6/5ｍは、1/5ｍの６こ分だから、目盛りの６つ目に表せる。 ・１ｍと 1/5ｍだから、１のとなりに 6/5 と表せる。 ・ホワイトボードに自分の考えを書き、解決結果の交流の準備をする。 ・学習リーダーを中心に、考えの交流を行う。	**〔個に応じた算数的活動〕** ・全員に**テープ図と数直線とを対応**させたワークシートを用いて取り組ませる。どのように考えて数直線に目盛りを書いたか**理由を言葉で**記入させる。 ・解決に戸惑う子どもには、教科書ｐ83 の図やＪＴからのヒントを手がかりに、テープ図と数直線の目盛りが対応していることに気づかせる。 ・支援の必要な子どもには、教科書ｐ83 の図を見ながらＪＴと一緒に単位分数が何個と確認しながらテープ図で取り組ませる。
・児童の言葉を使いながらまとめる。	6　課題についてまとめる	まとめる 2分			

14÷３の答えを見つけるときも、今までのわり算と同じように答えを求められる。

	7 適用問題をする ①ゼリーが13個になった場合について、立式し問題を解く。 式 13÷3 <u>答え 4人に分けられて、1こあまる</u>	ひろげる 8分	ふかめる 6分	5 結果の検討をする ①1/5mの6こぶん、7こぶん、8こぶん、9こぶんを表す分数の確認をする。 ②数直線に表した理由について話し合う。 ③既習の分数との共通点について話し合う。 ・1をこえても分母は5で変わらない。 ・分子の数が何こ分を表している。 ・分子が、順序よく5、6、7、8、9とならんでいる。	〔**個を生かした学び合い**〕 ・はじめに、分数を用いて表した量を確認する。 ・次に、**数直線**の目盛りをどのように区切ったか**筋道立てて説明**させる。 ・既習の分数との**共通点**について話し合わせ、整数や小数と同じように、分数も**単位分数**で考えると単位量をこえる大きさまで**拡張**できることに気づかせるようにする。 ［考］整数と同じように、単位の何こ分として分数をとらえている。 （ワークシート、発表、観察）
・分かったことやよかったこと、これからの課題などワークシートに書かせる。	8 学習を振り返る		まとめる 2分	6 課題についてまとめる 1より大きい分数も1/5の何こ分で表すことができる。 真分数は、分子が分母より小さい分数。 仮分数は、分子と分母が等しいか、分子が分母より大きい分数。 7 学習を振り返る	・分かったことやよかったこと、これからの課題など発表させる。

（4）評価の観点と具体の評価規準

観点	数学的な考え方	
十分満足	おおむね満足	努力を要する児童への手立て
わり切れない除法計算を、既習のわり切れる場合と結びつけて考え、乗法九九で答えを求められることを筋道立てて説明できる。	わり切れない除法計算を、既習のわり切れる場合と結びつけて考えている。	教科書p66のまみさんの考えを手がかりに、JTと一緒におはじきを使って操作活動をさせ、既習のわり切れる除法と同じように答えを求められることに気づかせる。

観点	数学的な考え方	
十分満足	おおむね満足	努力を要する児童への手立て
整数と同じように、単位の何こ分として仮分数をとらえ、数直線上に表せる理由を説明できる。	整数と同じように、単位の何こ分として仮分数をとらえている。	テープ図と数直線図を対応させたワークシートを活用し、JTと一緒に活動させ、分数に表したり、数直線上に表したりできるようにさせる。

（５）板書計画

３年

問題

ゼリーが 14 こあります。１人に３こずつ分けると、何人に分けられますか。

12 のとき 12÷3=4　答え４人

15 のとき 12÷3=5　答え５人

14 のとき 14÷3

答え４人に分けられて２こあまる

かだい

14÷３の答えの求め方を考えよう。

見通し

・12 このときは４人で、15 このときは５人だったから、４人

・おはじきで考える。

・図で考える。

・３のだんのかけ算で考える

おはじき

図

かけ算

まとめ

14÷３の答えを見つけるときも、今までのわり算と同じように答えを求められる。

４年

問題

1/5ｍの６こぶん、７こぶん、８こぶん、９こぶんの長さはそれぞれ何ｍといえばよいでしょうか。

・1/5ｍの５こぶん　5/5ｍ

・5/5ｍ＝１ｍ

・分子は、何こぶんを表す

課題

１より大きい分数の表し方を考えよう。

見通し

・６こ分だと 6/5ｍと表せる

・テープを使う。

・数直線上に表す。

数直線と理由

数直線と理由

まとめ

１より大きい分数も 1/5 の何こ分で表すことができる。

真分数は、分子が分母より小さい分数。

仮分数は、分子と分母が等しいか、分子が分母より大きい分数。

テープ図と数直線